

第10分科会「危機対応」について報告致します。

研究課題は、「様々な危機への対応と未然防止の体制づくりにおける校長のあり方について」です。今年度は、前年までの危機管理に関する研究の蓄積を踏まえつつ、突如全世界を巻き込んだコロナ禍における学校経営のあり方について研究発表をまとめました。

テーマを「コロナ危機下での学校の安全・安心の確保と学びの保障の在り方」～緊急事態宣言による臨時休業時の各校の取組と今後の展望について～とし、砂川市立豊沼小学校古畑聡子校長先生に誌上発表をいただきました。研究は、一斉休校下で、児童の安心・安全を家庭と連携して確保する取り組みや「学びをとめない」ための実践を空知校長会小学校会員からのアンケートをもとに可視化し、得られた教訓をまとめたものでした。

誌上交流では、17のご意見と感想をいただきました。研究発表の内容を学校経営の参考としたとの声とともに、自校や各地の取り組みについて情報提供もありました。寄せられた感想や意見の全ては、分科会が開催されていたら道小ならではの生きた情報交流が実現したと想像されるものばかりでした。また、研究発表に対して、今後の学校経営のあり方について多くの示唆をいただき、対面での分科会を行ったときと同様のまとめを行うことができました。

成果として、「学びをとめない」という校長のリーダーシップが創意工夫ある取り組みへとつながって行ったことが明らかになりました。各地校長会でも同様の取り組みが行われていたことも誌上交流から共有されました。また、子どもたちの心のケアや学びの支援を想定した取り組みが数多く試される中で、家庭との連携の深まりと重要性が再認識されました。

課題としては、各校の取り組みや学校間、関係機関との連携に差があることから、今後は、校長会活動を通じて、どの市町村でも質の高い適切な対応を実践できるようにする必要があること。想定外の危機にも、子どもたちの学びと心のケアをとめない体制を準備、その活用を児童・保護者とあらかじめ共有し備える必要があること。更に、前倒しとなった「GIGAスクール構想」に果敢に取り組み、次世代の教育の実現を目指して行くことをあげることができます。

この度初めて体験した「誌上交流」による研究大会ですが、全道の会員から感想や意見をいただいたことで、研究発表の成果と課題をしっかりと捉えることができました。対面での研究大会と同じとは行きませんが、継続して共同研究を進めていける方法の一つであったと実感しています。本研究をお読みいただいた皆様及び感想やご意見をお寄せ下さった皆様に改めて感謝申し上げます。